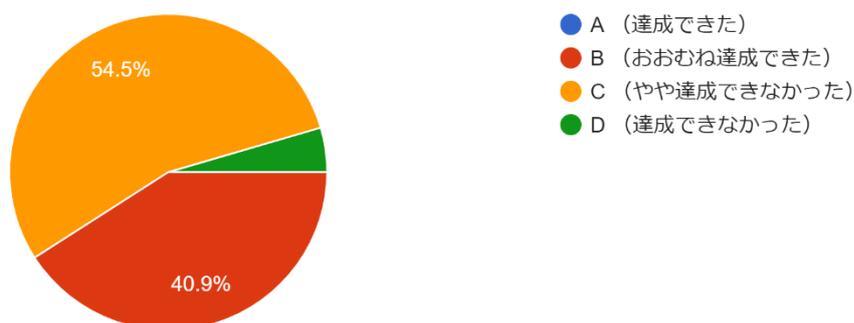


令和5年度 学校自己評価（中間）まとめ

今年度城下小学校では、学校教育目標「まなび きたえ ともにのびる子 ～今を・未来を 喜びをもって生きる子ども～」のもと、「自分で考え 動き出す力」「関わり 感じる力」を重点目標に据えて、全職員で取り組んでおります。今年度前半の取組について、学校職員でふり返しを行いました。成果と課題を見極め、学校運営の後半に生かし、よりよい学校づくりをめざしていきたいと思います。

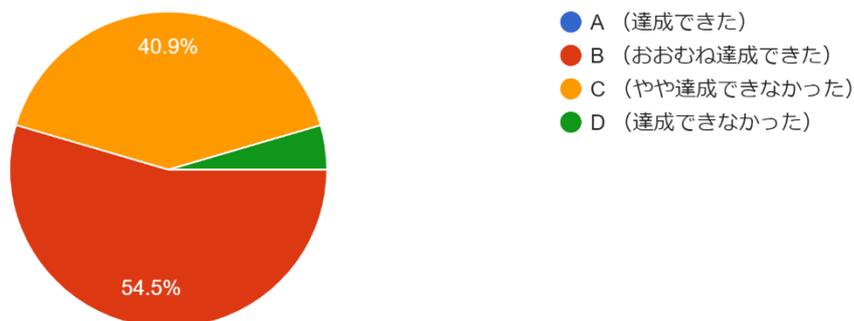
1. 今年度の重点目標

(1) 自分で考え動き出す力



- ・ 子ども達が企画し実行する場面が増えてきた。
- ・ 自分達で問題意識をもつと自ら動き始めることができた。
- ・ 授業では、自分で考える時間をとり、自分で追究する力を身につけられるようにした。自分の考えに自信をもち、動き出せるように、考えを褒めたり認めたりする声かけを心がけた。
- ・ 子ども達の問題意識を大切にしたい授業を心がけた。
- ・ 清掃の時間に「見つけ掃除」を行う姿が見られるようになった。
- ・ 自分から学ぶ意欲は、子ども達の個人差が見られた。一人ひとりが自ら動き出せるような授業を考えていきたい。
- ・ 動き出すことに対して、慎重になりすぎてしまう姿が見られた。もっと自信をもって行動に移れるような経験を積み重ねていきたい。

(2) 関わり感じる力

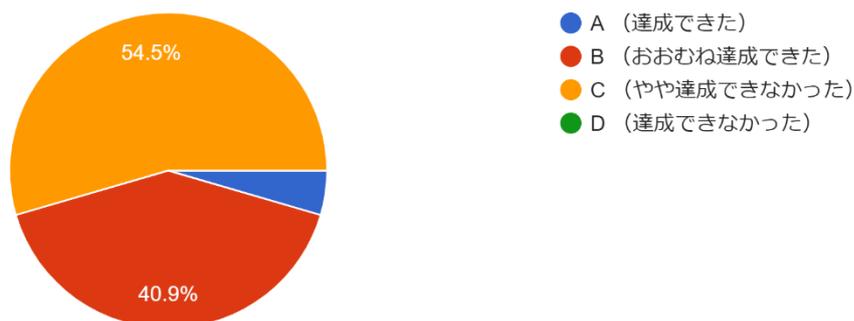


- ・ 友だち、地域の方と関わりながら、様々な場所で学習することができた。
- ・ クラス全体で一つのことに関わり、ものづくりや育てる楽しさを味わうことができた。
- ・ 授業では、グループやペアで考えを話す活動を多く取り入れた。全体の前で話すことが苦手な子もペア活動などで少しずつ自分の考えを伝えられるようになってきた。
- ・ 友だちと関わり仲良く遊べる集団、学習グループで活動に取り組み、困っている子に進んで声をかけることができる学級集団になってきている。
- ・ 友だちの考えを聞き、自分の考えと比べたり考えたりすることにも取り組めるようになってきている。
- ・ 友だちの発言に、目と気持ちを向けて聞くことができるようにしたい。友だちの発言から自己をふり返ったり、違いを見つけたりすることの大切さを授業で感じ取らせたい。
- ・ 友だちや他者への言動に、もっと丁寧さや優しさが見られるとよい。学校の外に出て、様々なものを見たり触れたり、社会の一員としての自分の在り方を考えたり、人との関わりを学んだりする経験を積ませたい。

2. めざす子どもの姿

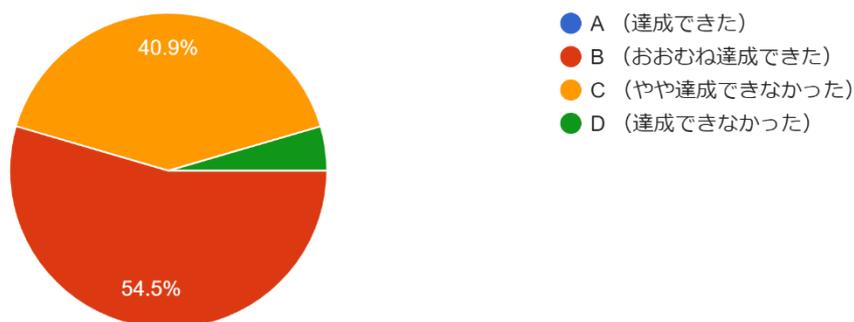
(1) 自ら求めて学び合う子ども

【学習問題の設定】



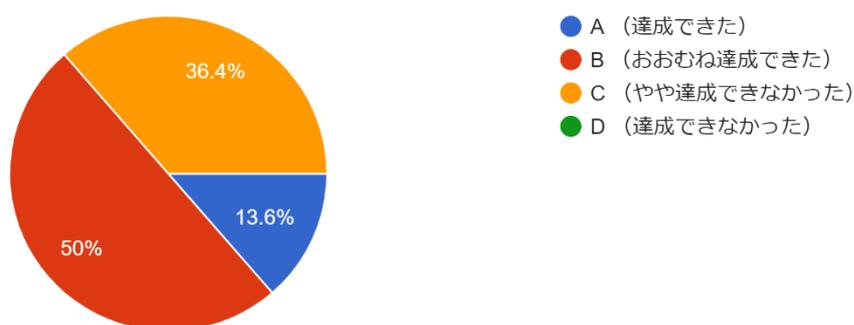
- ・ 「主体的な学び合いのための手立て」を児童の問題意識を大切にしながら考えることができた。児童の問題意識と主体的な活動はつながって存在しているので、さらに授業改善を進めていきたい。
- ・ 1時間の中で「自分が何を学習するのか」「追究することは何か」を子ども達の中で明確にし、目的をもって授業に取り組めるようにした。
- ・ 児童の問題意識を学習問題に据えることが難しかった。子ども達にとって、学習が「やりたいこと」ではなく「やらなければならないこと」となってしまった。
- ・ 授業の中での個別最適な学びをどう位置付けたらよいか、考えていきたい。

【対話的個人追究】



- ・ 分からないところを教え合う姿が多く見られた。グループ学習の中で、友だちに意見を伝えることもできるようになってきた。
- ・ 自分の考えを友だちと共有したり、分からない時に友だちの意見を聞こうとしたりする態度が身に付いてきた。
- ・ 教師主導になってしまう部分があったので、子ども達が自ら友だちとの意見交流をしていかれるようにしたい。
- ・ ペアやグループでの活動を取り入れたが、「深める」というところが難しい。相談しやすい課題の時は学び合いが成立するが、協働的な追究が難しい場面が多かった。

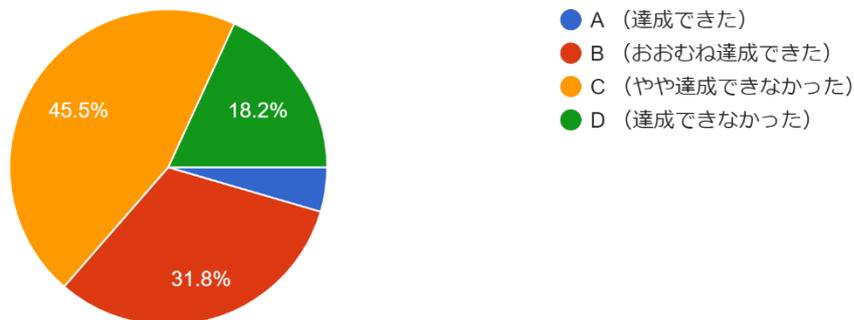
【学習環境の整備】



- ・ 毎時間の授業展開を同じようにしたり、どの子にも分かりやすいように手順を示したりして、授業の見通しがもてるようにした。
- ・ 視聴覚機器や教材、ICT 機器を効果的に活用して、分かりやすく個に応じた学習を心がけた。
- ・ 視覚支援などを心がけてきたが、「ユニバーサルデザイン化」を更に工夫する必要がある。
- ・ 指示が長くなってしまったことがあったので、簡潔で的確な指示を心がけたい。

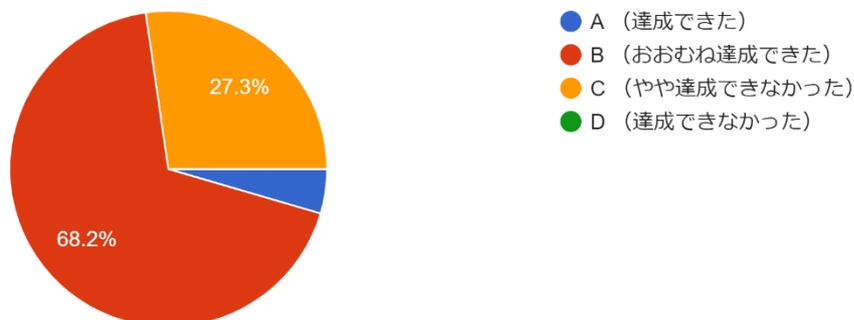
(2) 明るくたくましい子ども

【無言清掃の充実】



- ・ 無言清掃を意識する子が少しずつ増えてきている。低学年も黙って清掃に取り組んでいた。時間いっぱい掃除をすることで、最後までやり抜く力がついてきている。
- ・ 気づき掃除で、壁際や窓のサッシや黒板の下など、汚れているところを見つけて掃除をする子が増えてきている。
- ・ 掃除に向かう気持ちを育てる中で、「見つけ掃除」の取り組み等をとおして、自分で判断して行動できるような力をつけていきたい。
- ・ 無言清掃で自分自身と向き合うところまでは指導できていない。粘り強く取り組む力をつけていきたい。

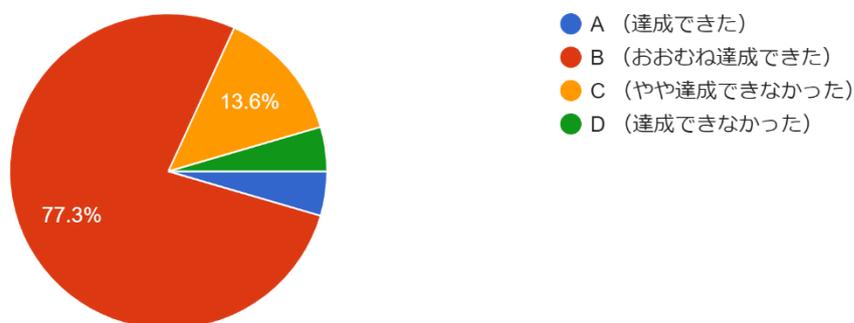
【心を交わす挨拶】



- ・ 教室に入ってくる時に自然と挨拶できる児童が多い。挨拶をし合うことで、挨拶の気持ちよさを感じている様子が見られる。
- ・ 挨拶ができる場面が増えてきたので、挨拶を通して、さらに相手の心を感じる力を育てていきたい。
- ・ 自分から挨拶ができる子が増えてきた。しかし、挨拶を自分からする子や挨拶が返せる子がいる一方で、なかなか難しい子もいて二極化を感じる。継続的に取り組み、教師から積極的に明るい挨拶をしていきたい。

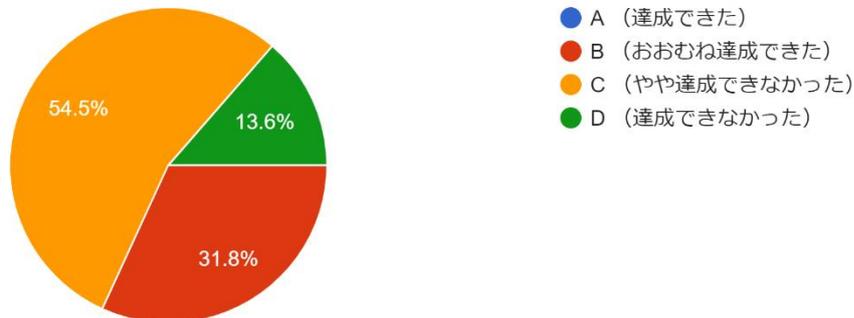
(3) 友や地域と関わり感じ合えるこども

【温かく関わり合う学級】



- ・トラブルが起きた際は、お互いがどのような気持ちになるのかを考えさせたり、代弁したりした。また、個々のよさを引き出すことができるように、褒めることを大切にしている。今後は子どもの人間関係や悩みに寄り添い、すべての子どもが安心して過ごせる学級にしたい。
- ・様々な思いや考えをもった友だちに対して、一人ひとりを包み込める温かい空気がクラスの中にあるので、大切にしていきたい。また、そのよさを子ども達に伝えていきたい。
- ・友だちのよいところを言葉にする姿があった。お互いの状況を認め合い、声をかけ、優しく関わっていた。

【地域と関わりよさを感じる】



- ・地域ボランティアなど、地域の方が城下小に協力してよかったと実感できるような取り組みができればよいと思う。ボランティアルームは、ボランティアの方が、子ども達とふれあいながら喜びを実感しやすい場になっている。
- ・米作りや町探検、農家の方のお話や、けん玉やクラブの講師など、地域の方と関わる場が増えた。
- ・児童の問題意識を大切にしたい探究的な学習を、総合的な学習の時間や社会科などの授業で進めてきた。さらに学校外へ発信することで、地域とのつながりを増やしていきたい。
- ・地域と関わった探究的な学習のアプローチが不足していたので、学習を発展させ、地域のものや人との関わりを深めていきたい。